

# 地域の歴史を学び、地域と共に育つ北っ子夢プロジェクト

## 刈谷市立富士松北小学校

### 1 はじめに

「あなたは、鎌倉街道をご存じですか？」

第1回北の歴史を学ぶ会は、こんな問いかけから始まった。子どもたち、保護者に加え北っ子を育む会（学区の地区長、公民館長、PTA会長、おやじ・お袋の会会長で構成）も参加して、元富士松北小学校校長で今年は刈谷築城480年記念事業実行委員長をお務めの山田孝先生による北の歴史を学ぶ会の始まりである。子どもたちが地域の人たちと積極的に関わりながら豊かな心を育んでいけるよう、また、地域に根ざした特色ある学校づくりに取り組んでいけるよう、北の歴史を学ぶことを中心にして実践に取り組むことにした。



北の歴史を学ぶ講演会

子どもたちが地域の人たちと積極的に関わりながら豊かな心を育んでいけるよう、また、地域に根ざした特色ある学校づくりに取り組んでいけるよう、北の歴史を学ぶことを中心にして実践に取り組むことにした。

### 2 実践の内容

#### (1) 鎌倉街道はどこだ！

北の歴史を学ぶ会で、北小学区の奈良時代からの歴史を教えてもらい、子どもたちはもちろんのこと、参加した保護者や北っ子を育む会の方たちも、大変興味深く聞き入っていた。中でも鎌倉街道と呼ばれる古い重要な街道が学区の東境町から西境町にかけて通っていたことに、大きな反響がみられた。そこで、6年生の社会の学習で、鎌倉街道を教材として取り上げることにした。

鎌倉街道が東境町の祖母神社を通っていたことは、まず間違いないところであるが、そこから西境町のどこを通って、境川を渡ったのか、はっきりしていなかった。江戸時代の学者が調べた文献でも3つのルートが考えられるという記述があった。子どもたちはそのことを知ると、自分たちの手でルート解明したいという意欲を見せた。文献や古地図を研究して、自分なりにルートを推測していたが、教室での検証に限界を感じたのか「先生。実際に見に行きたい」という声が多くなった。



鎌倉街道を歩く子どもたち

そこで、北っ子を育む会の方の協力を得ながら現地調査を行った。当日はまず、境川の堤防から祖母神社を見渡し、自分の推測した道筋を現地で描かせ、実際に歩かせてみた。実際に歩いてみた結果、自分の推測に確信をもった子どもも、逆にこの道では昔の人も歩かないだろうと再考する子どももいた。いずれにしても、当時の人々の気持ちになって、街道を歩いたことで、以後の学習がとても充実したものになった。この学習を通して、子どもたちは江戸時代に整備された「東海道」よりずっと以前に、東海道（あずまみち）とも呼ばれ重要な街道であった鎌倉街道が、自分たちの身近な場所を通っていたことに素直に感動していた。それと同時に、北小学区の歴史が中央の歴史にもつながっており重要な役目を果たしていたことで、自分の学区に誇りをもつことができた。

それと同時に、北小学区の歴史が中央の歴史にもつながっており重要な役目を果たしていたことで、自分の学区に誇りをもつことができた。

#### (2) 刈谷藩にも幕末の志士がいた！

子どもたちの興味は、学区から刈谷市へと広がり、刈谷藩出身で明治維新の魁となった天誅組の存在を知った。天誅組の中心人物であった松本奎堂、宍戸弥四郎、伊藤三弥らの日本の夜明けを求める熱き思いを知れば知るほど、子どもたちのあこがれは強くなった。さらに、だれもが知る坂本龍馬や中岡慎太郎ともつながっていることを知り、幕末から明治維新の学習は熱気を帯びてきた。そこで、刈谷市の元教員で坂本龍馬の研究者でもある、信原玲子先生に特



信原先生の出前授業



墳墓を拝む子どもたち

別授業を依頼し第2回北の歴史を学ぶ会を開催した。信原先生の熱い語りと、幕末・維新の裏話に子どもたちは目をらんらんと輝かせて、聞き入っていた。さらに子どもたちは、龍馬や奎堂たち幕末の志士たちの墓が京都の霊山にあることを教えてもらい、是非とも訪れたいという声が上がった。そこで、修学旅行のコースに霊山歴史館と志士墳墓を加えた。6年生全員で墓に手を合わせ、花を手向けて近代日本の礎となった志士たちに思いを馳せた。

### (3) 刈谷の歴史をたどれ！

松本奎堂らの足跡をたどるうちに、市内にも彼らをまつる史跡があることを知り、子どもたちはそこも訪ねてみたいという希望が強くなった。そこで、第3回北の歴史を学ぶ会として刈谷城周辺の史跡巡りを行うことにした。当日は山田先生とガイドボランティアの方たちの案内で、松本奎堂の墓と生家跡や穴戸弥四郎の墓と生家跡を巡り、最後は刈谷城に入るための大手門の跡と本丸跡を見学した。この見学を通して、子どもたちは、ここまでの歴史の学習を振り返り、地域の歴史が刈谷の歴史につながり、刈谷の歴史が日本の歴史につながっていることを強く意識できた。そして、その歴史のつながりの中に自分たちも生きていることを自覚することができた。



刈谷城跡、ボランティアの説明

### (4) 地域との絆を深めたその他の活動

本校では6年生以外にも地域の方と共に活動して、絆を深めている。例えば1年生は北っ子の森などで採集したドングリを愛知教育大学の先生や学生と共にクッキーにして食べ、森からの恵みを実感した。2年生は町探検で、学区の商店の協力を得て学習することができた。3年生は地域の特産である大根を地域の農家の方の指導を受け栽培し、切り干し大根を作ることを体験した。4年生は国の天然記念物である小堤西池のカキツバタ群落(日本三大カキツバタ自生地)を守る人々から、苦労や喜びをお話しいただいた。5年生はJAの協力で、袋大根の栽培をし作物を育てる苦労や収穫の喜びを味わった。さらに、年間を通して、北っ子の森を守る会の3人の講師の方から森を守る大切さや竹切り・竹炭について、学ぶことができた。



カキツバタを守る会の活動

## 3 実践の成果や課題

### (1) 北っ子フェスティバルで学んだ成果を発表する子どもたち



北っ子フェスティバルの熱演

本校では毎年2学期末に、それまでの学習の成果を発表する「北っ子フェスティバル」を開催している。6年生は、ここまで学習してきた歴史を題材にして、刈谷藩の初代藩主、水野勝成の活躍や、天誅組の悲劇、そして龍馬の生涯まで、自分たちで脚本を作り、衣装も手作りして劇を創って発表した。劇中では自分たちが学び、理解したことを基にして、ユーモアたっぷりに表現することができた。これは、歴史上の人物を、とても深く理解したからこそ演じられたことと思う。歴史の学習で史実を学ぶだけに止まらず、そこに生きた人々の喜びや悲しみ、そして願いまでに思いを寄せ、実際に自分の目で見て、耳で聞き取ってきた成果であると考えている。

### (2) 地域のさらなる歴史の掘り起こし

今回の取組では、鎌倉街道を学習の糸口にして、実践を展開し、成果を上げることができた。しかし、地域には鎌倉街道以外にも歴史的な教材が埋もれていることを山田孝先生から教えていただいた。今年度の取組では、残念ながら教材化まではできなかったが、今後は教材として扱い、子どもたちが地域への愛着をさらに深め、誇りに思えるようにしていきたい。